

広島県のイチヨウランについて

世 羅 徹 哉

イチヨウラン (*Dactylostalix ringens* Reichb. f.) は、1属1種の日本固有の地生ランである。里見 (1982) によれば、南千島~九州にかけての深山の林床に生育する。

広島県ではこれまでに、十方山 (唐澤1980)、不明山 (土井1983)、吉和冠山 (井波および三上1985、三上ら1992) の報告がある。この内、吉和冠山の生育地では森林の伐採によって絶滅したと考えられ、その他の場所でもその後確認されていない。著者は、1992年5月吉和冠山で新たに本種の自生を確認したので記録しておく。

1992年5月1日、吉和冠山北西斜面の標高約1100mの地点で、京都薬科大学附属薬用植物園の後藤勝美氏、鎌倉市のスミレ研究家の石井喜久雄氏、吉和村教育委員会の栗栖知代子氏、広島市の植物研究家の三上幸三氏、広島市植物公園の尾崎健司氏および著者の6名でジャクツスミレの調査を行っていた際、本種を発見した。この時は花茎が約5cm伸びた状態であったので、その後同月13日に、当園の橋本清美園長と財団法人広島市農業振興センターの石田源次郎氏 (前当園栽培課長) および著者の3名で再び現地を訪れ、開花中の本種を確認した。

生育地は、スギ自然林に接するブナとカエデ



類の混交林のやや明るい林床であった。北西向きの緩傾斜地で、落葉の堆積はほとんど無く、黒い腐植層が露出した場所であった。確認したのは4本立ちになった1株のみで、周辺を広範囲に探したが、他の株を発見することはできなかった。

広島県内では前記の他に、山県郡芸北町のブナ林で本種の自生を見たという情報を得ているが、著者は未見である。本種のように個体数が少なく、確認された自生地も限られている種については、早急に調査を行い、森林の伐採等で生育地が破壊される前に、野生個体を保護する手段を講じる必要がある。

最後に、本種の発見、確認にご協力いただいた、前記の方々にお礼申し上げます。

<引用文献>

- 土井美夫 1983. 広島県植物目録. 160pp. 博新館, 広島.
井波一雄・三上幸三 1985. 広島県植物図選Ⅲ. 223pp. 博新館, 広島.
唐澤耕司 1980. 広島県下で発見されたラン科3種. 広島市植物公園栽培記録2:22.

